江差町立南が丘小学校　　研究部通信

南小たば風通信　２０１９

令和元年１２月１３日　第２７号

飯高先生ありがとうございました！

　授業交流がスタートしました。第１弾が飯高先生による「ないた赤おに」でした。参観された先生方からたくさんのご意見をいただきましたので紹介します。
　次回以降の授業にも関連付けたり、そのまま生かしたりできることができる意見もありますので、ご活用ください。

＜よかった点＞
- 矢印で「今日何をするのか」を示していたのは視覚的にもよかった。
- 前時を振り返るところで、場面が絵カードでわかりやすく示されていてよかった。
- 初めの前時のふりかえりで学習していることがよくわかりました。
- 前時までの確認が短い言葉でのやり取りでスッキリしていてよい。
- 活動を区切るところで（ノートの書き方など）児童にわかりやすい指示になっていた。
- 児童がわからないところをしっかり質問できたりしているところがよいと思った。
- 「１～６の場面の～」のところは難しかったが、「絵を描きたいところ」という発問でスッキリ伝わっていた。
- 自分なりの理由がしっかり書けていた。（しかし、みんなが読みたくなる理由になったのか？はぼやけてしまった。）
- 話の読み取りがよくできていたので、理由がしっかりかけていたと思います。
- ノートの書き方を実際のノートに書いて示したり、計画を一覧にしたり子どもたちが見通しをもって取り組めると思いました。
- 「お話大好きカード」の完成形が掲示してあったから、目的が子どもたちにもわかりやすいと思いました。
- 「場面」を選ぶ・教科書の段落で選ぶ　→　特に絵に表すときに「大事なキーワードになる文にラインを引く」だと、よりスッキリ進んだのかもしれません。
- ホワイトボードに①②③の順が書かれていたのでわかりやすかった。
- 担任をしているＲくんのことを気にかけ、言葉をかけながら他の子どもたちの机間巡視をしているのがよかった。
- みんなが先生の話をよく聞いて頑張っていたと思います。
- 書いたり、質問したりやる気があると思いました。
- 少ない人数に応じた個への指導がよかった。途中で全体で確認する方がよいものは全体で確認する必要あり。
- 落ち着いた中での説明や指示がよかった。児童の集中を高める手立て（メリハリ）が大事ですね。
- 教具（わりばしのおに）が個への説明のときに役立っていた。

＜改善点＞

- お気に入りの場面を選べないこのために、「つかむ」のときに使用した挿絵から選んでもよい。
- 自分も指導書がいう「場面」と子どもたちや自分が思う「場面」がわからなくなることがあったので、「場面」のとらえ方が難しいと思いました。
- めあての「お気に入りの場面の理由」と「みんなが読みたくなる理由」とが一致するか疑問。おすすめの場面＝お気に入りの場面というとらえで考えていいのか？
- 課題が難しいと思った。
- お気に入りの理由は読んだ上で書くことなので、「教科書に書いてあることをもとに」と強調しなくても書けたのではないかと思います。
- 「みんなが読みたくなる理由」が難しいなと思いました。
- 大きい場面を子どもたちが選んでいたので、まず書かせてみたらよかったかもしれないと思いました。
- 子どもたちは「絵を描く」に反応していたので、好きな絵を選んで理由を書かせるのもありなのかなあと思いました。
- 理由を書かせたら教科書で分けられている場面の中でも特に好きなところがわかると思いました。
- 理由のポイント（ピンク色の模造紙）は、字を大きくしてホワイトボードの②と③の間に貼るとよいかなと思いました。
- ２名ほど、教科書の挿絵を描くことをイメージしているのでは？と思いました。
- 終わった子への指示を出した方がいいと思いました。待っているのが長い人もいたと思います。
- めあてと活動のつながりとして、「読みたくなる」が指導者側の評価の観点がはっきりしていたのか？
- ホワイトボードの挿絵は、右から左の方がよい。教科書に合わせる必要あり。困る子が出ないようにした方がよい。（ICT も字の大きさや明るさなども）
- めあてを早く書き終わった子への指示があるとよい。（お気に入りの場面見つかるかな？など）
- 自分で教科書を開いている子もいたので、その先があるとみんな効果的かなと思います。
- お気に入りの場面は絵で決定するのか、文章で決定するのかの優先順位がどちらなのか？この指示がスッキリすると後半の時間に余裕が出るかも。

前時までのふりかえりやカードの完成形の掲示、教具の工夫など、低学年なので視覚でとらえやすいものが有効だと言えそうです。これは、低位の子への支援にもつながります。各学級での指導にも活用できそうです。

また、国語だけでなくどの教科でも、早く終わった子への次の指示や活動の準備が大切なことも改めて感じました。

飯高先生、支えてくださった三上先生、お疲れさまでした。ありがとうございました。

参観できずすみませんでした。（山本）